

# ブナの里

地衣類が付いて美しい模様となった黒松内町歌オブナ林のブナの大木

黒松内町ブナセンター 学芸員 齋藤 均 撮影

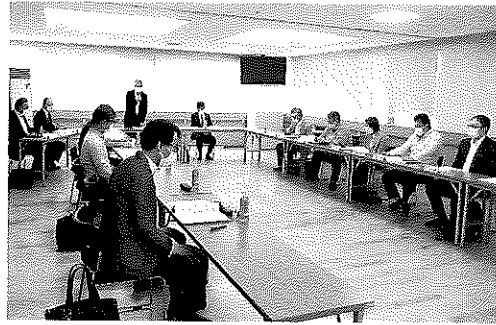
※地衣類（ちいるい）とは、菌類と藻類が共生した植物の一群で、独特のモザイク模様となる

- ◇ 2021年度 法人事業報告・収支決算書 . . . . . P2~6
- ◇ 法人各事業所の2021年度事業報告 . . . . . P8~13
- ◇ 特定技能・技能実習生辞令交付式・研修会 . . . . . P14~15



## 第53回評議員会開催 事業報告・決算が承認される

6月28日に定例評議員会が開催され、2021年度事業報告並びに決算案が承認されるとともに、監査法人の会計監査報告及び監事監査報告を行いました。当法人の評議員9名のうち8名が出席し、監事2名と理事長・業務執行理事2名が出席して議事を進めました。評議員会での承認を受けて事業報告・決算の開示を行います。



## 社会福祉法人黒松内つくし園 2021年度事業報告

### I. 概括

2021年度は、各事業所でもより良い自立支援サービスを提供するため、法人理念・倫理綱領に沿って運営を実施しました。

6月の役員改選により、大代理事を再任。また、理事7名・監事2名・評議員9名を選任し、新たな体制で事業運営を行いました。

法人運営では、中長期事業計画に基づいた将来的なビジョンを、役職員が共有し取り組みました。また、事業再編を継続し、経営の健全化へ向けた事業再構築を実施しました。人材の確保・定着・育成のための取り組みを強化し、働きやすい職場環境の提供と職員への待遇改善に取り組みました。そして、コロナ禍において、地域・社会貢献事業の継続と推進を図ってまいりました。

各事業所で健全経営への取り組みを行い、資金収支決算書で2期連続の黒字を達成しました。

### II. 事業計画の実施状況

#### 1. サービスの質の向上

・内部・監事監査で利用者サービス計画の整備状況を確認。各事業所でのサービス計画は概ね適正に実施されている。

・リスクマネジメント委員会でも各施設の災害時業務継続計画（BCP）を更新し、理事会で報

告した。

・事故、ヒヤリハット件数削減へ向けて情報共有等の取り組みを行い、事故件数120件（前年より29件減）となった。

・新型コロナウイルス感染症拡大の中、施設内での感染症対策を継続。各施設で利用者や職員のワクチン接種を積極的に進め、対象者への3回目ワクチン接種が概ね完了した。

・新型コロナウイルス感染症が1月以降急拡大する中、一部施設で利用者または職員の陽性者が確認された。保健所の指導により隔離等の対応をしっかりと行い、感染拡大を防ぐことができた。

2. 中長期ビジョンへ向けた取り組み

・黒字化を達成できるよう四半期ごとの資金収支ヒアリングで各拠点収支状況の確認を細部にわたり実施。また、毎週開催の経営会議で施設整備計画や各拠点経営状況の分析・判断をスピーディーに行い、様々な課題とさらなる事業再編に取り組んでいる。

・児童養護施設の小規模化への対応として、黒松内つくし園で

定員を75名に減少した。今後も状況を見ながら段階的に定員変更を行い、町内や他町村での運営の検討を進めていく。

・旧緑ヶ丘ハイイツ建物の有効活用を検討したが、老朽化が著しく改修費用が巨額なため解体する方向で検討中。

・後志リハビリセンター、ユニットケア慶和園、倶知安複合施設で屋上防水工事を実施。総工事費は39,490千円で各積立金を取崩し12月に完了した。

・法人の積立資産の資金運用を検討し、社債等金融商品を購入した。

#### 3. 法人事業の再構築

・倶知安地区で事業再編への取り組みを継続。さらに訪問介護障がい者グループホームの運営形態を今年4月より変更し運営効率の向上を図る。

・緑ヶ丘ハイイツでは、職員体制の確保が進まず利用稼働率が低迷。3月末で入所者66名、年間稼働率85.8%と厳しい状況である。

・緑ヶ丘老人ホームでは、特定施設入居者生活介護事業の形態を外部利用型から一般型特定施設

設に移行し、介護保険収入が増加。

・泊村むつみ荘の介護報酬返還について、利用料返金手続きを行い、支払を1月に完了した。

#### 4. 人材確保と職員育成

・人材確保では、4月新卒採用6名でスタート、3月末までに27名を中途採用したが、32名が退職となった（3月31日職員数504名）。

・人材センターと法人本部人事部門による職場ガイダンス、オンライン面接への取り組みを強化し、新卒者・中途採用者の確保を図っている。2022年4月採用者は12名（大卒4名・専門学校卒4名・高卒4名。職種は介護員3名・生活支援員7名・栄養士2名）。

・外国人介護人材の確保へ、ベトナム人技能実習生3期生10名の採用を内定したが、コロナ禍のため入国できず、今年の6月に雇用開始。特定技能外国人の採用として、カンボジア人3名とインドネシア人4名が5月着任。1名が8月着任予定。

・職員の離職を防ぎ、働きやすい職場環境を提供するため、各

施設で職員の福利厚生等のサポートをさらに充実させる取り組みを実施。

・職員の育成として、WEB研修システムを契約し、各施設・職員がオンラインにて研修を受講してスキルアップに繋がっている。

#### 5. 職員の待遇改善への取り組み

・適切な労務管理と業務・労働環境改善への取り組みを各事業所で実施。2022年度に勤怠管理システムの運用拡張を行い、事務効率向上を進めていく。

・湯の里・黒松内で介護ロボット導入事業を実施。職員の負担軽減と利用者サービスの向上への取り組みを実施している。

・国により創設された2022年介護・保育・児童施設職員の処遇改善への支援補助金について、制度に沿った処遇改善実施へ向けて支給対象職員・改善金額等の検討を行い、3月に申請し手当の支給を行った。

・D&Iへの取り組みとして、事実婚と同性パートナーへの福利厚生制度の適用を行うことを決定。

・SDGsへの取り組みとして、取引先のサポートを受け、「黒松内つくし園SDGs宣言」の発表を今年5月に実施。ジェンダー平等や働きやすい職場づくりへの取り組みをさらに推進していく。

#### 6. 法人本部機能強化の推進

・法人人事・給与システムの運用一本化へ向けて、勤怠管理システムの運用開始への検討を行った。2022年度に給与締め日の変更を行い、事業所による勤怠管理・集計・給与計算までの本格的な運用を開始する。

・法人内情報系システムを契約更新し、クラウド版に移行した。

・四半期ごとに内部監査を実施。監事監査にて、法人全体及び各事業所事業報告や内部統制プロセス等の点検状況を適切に報告している。

#### 7. 地域貢献事業の推進

・配食サービス、奨学金支給等は継続。留寿都高校の奨学資金制度の利用希望があり、今年度より支給した。

・各施設の行事等は感染対策を強化して、利用者への参加で各行事を再開。ご家族や来賓等

の参加は、国・自治体の非常事態宣言・蔓延防止等感染対策措置状況と各施設の判断で実施した。

・各施設で介護・保育実習の受け入れを行い、採用増に繋がっている。さらに、小中高生の福祉体験実習の受け入れを再開した。

・7月より社会貢献事業として、町内の通園困難世帯に向けた保育園児童送迎事業をスタートした。黒松内町社協ボランティアが同乗し、平日の毎日朝夕2回送迎を実施している。

・黒松内保育園の新規事業として、子育て一時預かりサービス「さんさんルーム」を開設。保護者が短期間の保育が必要な時に利用できるサービスで、通院等で子どもを預ける際に利用されている。

・慶和園在宅要介護者受入事業は、整備事業を完了して体制を整え、北海道の要請により事業を行う（3月末日現在未実施）。

その他詳細な事業報告につきましては、当法人ホームページにて情報開示しますのでご覧下さい（本誌裏表紙URL参照）。

第一号第一様式(第十七条第四項関係)

## 法人単位資金収支計算書

(自2021年4月1日 至2022年3月31日)

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	1,411,838,000	1,407,949,055	3,888,945	
	老人福祉事業収入	316,105,000	316,648,592	△543,592	
	児童福祉事業収入	410,281,000	413,912,148	△3,631,148	
	保育事業収入	98,636,000	98,761,640	△125,640	
	就労支援事業収入	42,368,000	37,897,147	4,470,853	
	障害福祉サービス等事業収入	736,431,000	738,500,259	△2,069,259	
	医療事業収入	11,425,000	9,594,431	1,830,569	
	その他の事業収入	18,547,000	18,616,650	△69,650	
	借入金利息補助金収入	27,000	27,150	△150	
	経常経費寄附金収入	7,363,000	7,510,867	△147,867	
	受取利息配当金収入	1,139,000	1,313,076	△174,076	
	その他の収入	40,905,000	40,805,465	99,535	
事業活動収入計(1)		3,095,065,000	3,091,536,480	3,528,520	
支出	人件費支出	1,859,675,000	1,847,433,731	12,241,269	
	事業費支出	655,250,000	639,330,813	15,919,187	
	事務費支出	405,690,000	391,198,736	14,491,264	
	就労支援事業支出	42,352,000	42,683,057	△331,057	
	利用者負担軽減額	7,906,000	7,728,695	177,305	
	支払利息支出	6,105,000	6,090,517	14,483	
	その他の支出	28,808,000	28,847,768	△39,768	
	流動資産評価損等による資金減少額	0	119,933	△119,933	
	事業活動支出計(2)		3,005,786,000	2,963,433,250	42,352,750
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		89,279,000	128,103,230	△38,824,230	
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	36,221,000	36,221,000	0	
	施設整備等寄附金収入	4,650,000	4,650,000	0	
	固定資産売却収入	204,000	204,810	△810	
	施設整備等収入計(4)		41,075,000	41,075,810	△810
支出	設備資金借入金元金償還支出	78,502,000	78,502,000	0	
	固定資産取得支出	33,840,000	33,749,944	90,056	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	12,848,000	12,880,476	△32,476	
	施設整備等支出計(5)		125,190,000	125,132,420	57,580
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△84,115,000	△84,056,610	△58,390	
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	99,339,000	98,600,500	738,500	
	その他の活動収入計(7)		99,339,000	98,600,500	738,500
支出	長期運営資金借入金元金償還支出	4,530,000	4,530,000	0	
	積立資産支出	86,443,000	122,291,216	△35,848,216	
	その他の活動による支出	6,585,000	6,584,333	667	
	その他の活動支出計(8)		97,558,000	133,405,549	△35,847,549
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		1,781,000	△34,805,049	36,586,049	
予備費支出(10)		2,000,000	0	2,000,000	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		4,945,000	9,241,571	△4,296,571	
前期末支払資金残高(12)		723,074,724	723,074,724	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		728,019,724	732,316,295	△4,296,571	

第二号第一様式(第二十三条第四項関係)

## 法人単位事業活動計算書

(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:円)

		勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)		
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	1,407,949,055	1,401,050,345	6,898,710		
		老人福祉事業収益	316,648,592	317,769,405	△1,120,813		
		児童福祉事業収益	413,912,148	384,805,040	29,107,108		
		保育事業収益	98,761,640	105,259,695	△6,498,055		
		就労支援事業収益	37,897,147	39,826,405	△1,929,258		
		障害福祉サービス等事業収益	738,500,259	759,249,716	△20,749,457		
		医療事業収益	9,594,431	10,463,968	△869,537		
		その他の事業収益	18,616,650	27,981,550	△9,364,900		
		経常経費寄附金収益	7,510,867	14,795,631	△7,284,764		
		その他の収益	33,615,498	30,577,895	3,037,603		
			サービス活動収益計(1)	3,083,006,287	3,091,779,650	△8,773,363	
	費用	人件費	1,857,465,386	1,854,306,509	3,158,877		
		事業費	641,273,565	625,692,921	15,580,644		
		事務費	391,338,704	337,671,723	53,666,981		
		就労支援事業費用	42,817,972	49,614,166	△6,796,194		
		利用者負担軽減額	7,728,695	7,843,417	△114,722		
減価償却費		262,219,961	269,259,726	△7,039,765			
国庫補助金等特別積立金取崩額		△114,554,695	△115,753,345	1,198,650			
徴収不能引当金繰入		0	212,523	△212,523			
その他の費用		23,390,287	23,349,052	41,235			
		サービス活動費用計(2)	3,111,679,875	3,052,196,692	59,483,183		
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△28,673,588	39,582,958	△68,256,546		
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	27,150	54,300	△27,150		
		受取利息配当金収益	1,313,076	47,957	1,265,119		
		その他のサービス活動外収益	6,683,543	7,463,466	△779,923		
				サービス活動外収益計(4)	8,023,769	7,565,723	458,046
	費用	支払利息	6,090,517	7,161,633	△1,071,116		
		積立資産評価損	1,688,000	0	1,688,000		
		その他のサービス活動外費用	16,806,831	5,788,416	11,018,415		
				サービス活動外費用計(5)	24,585,348	12,950,049	11,635,299
				サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	△16,561,579	△5,384,326	△11,177,253
				経常増減差額(7)=(3)+(6)	△45,235,167	34,198,632	△79,433,799
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	36,221,000	39,105,000	△2,884,000		
		施設整備等寄附金収益	4,650,000	6,900,000	△2,250,000		
		固定資産受贈額	235,125	1,100,000	△864,875		
		固定資産売却益	204,807	28,161,875	△27,957,068		
		その他の特別収益	92,590	0	92,590		
			特別収益計(8)	41,403,522	75,266,875	△33,863,353	
	費用	固定資産売却損・処分損	20,022	16,636,621	△16,616,599		
		国庫補助金等特別積立金積立額	36,221,000	39,105,000	△2,884,000		
				特別費用計(9)	36,241,022	55,741,621	△19,500,599
				特別増減差額(10)=(8)-(9)	5,162,500	19,525,254	△14,362,754
		当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△40,072,667	53,723,886	△93,796,553		
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		2,235,485,014	2,191,696,608	43,788,406		
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		2,195,412,347	2,245,420,494	△50,008,147		
	基本金取崩額(14)		0	0	0		
	その他の積立金取崩額(15)		60,939,800	111,813,857	△50,874,057		
	その他の積立金積立額(16)		77,466,961	121,749,337	△44,282,376		
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	2,178,885,186	2,235,485,014	△56,599,828		

第三号第一様式(第二十七条第四項関係)

## 法人単位貸借対照表

(2022年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部				負債の部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	970,548,405	958,323,858	12,224,547	流動負債	357,864,727	366,261,059	△8,396,332
現金預金	565,192,940	570,521,996	△5,329,056	短期運営資金借入金	100,000,000	100,000,000	0
事業未収金	369,694,703	340,030,680	29,664,023	事業未払金	78,509,323	75,379,067	3,130,256
未収金	186,014	337,655	△151,641	その他の未払金	9,899,600	11,189,750	△1,290,150
未収補助金	21,851,770	30,375,197	△8,523,427	1年以内返済予定設備資金借入金	69,582,000	78,502,000	△8,920,000
医薬品	532,407	572,402	△39,995	1年以内返済予定長期運営資金借入金	4,530,000	4,530,000	0
商品・製品	154,350	337,400	△183,050	1年以内返済予定リース債務	12,292,792	12,670,596	△377,804
原材料	6,072,702	6,024,567	48,135	未払費用	35,910,915	35,457,163	453,752
立替金	2,104,373	3,881,805	△1,777,432	預り金	580,920	138,077	442,843
前払金	139,870	4,004,780	△3,864,910	職員預り金	4,529,177	4,296,506	232,671
前払費用	4,619,276	2,449,899	2,169,377	前受収益	0	24,000	△24,000
徴収不能引当金	0	△212,523	212,523	賞与引当金	42,030,000	44,073,900	△2,043,900
固定資産	5,088,795,669	5,299,619,740	△210,824,071	固定負債	943,476,112	1,015,272,942	△71,796,830
基本財産	3,885,938,448	4,066,077,553	△180,139,105	設備資金借入金	602,764,000	672,346,000	△69,582,000
土地	100,609,900	100,609,900	0	長期運営資金借入金	27,180,000	31,710,000	△4,530,000
建物	3,784,328,548	3,964,467,653	△180,139,105	リース債務	18,302,798	27,657,270	△9,354,472
定期預金	1,000,000	1,000,000	0	退職給付引当金	283,921,199	277,016,574	6,904,625
その他の固定資産	1,202,857,221	1,233,542,187	△30,684,966	その他の固定負債	11,308,115	0	11,308,115
土地	56,011,709	56,011,709	0	報酬返還引当金	0	6,543,098	△6,543,098
建物	174,258,687	189,604,247	△15,345,560	負債の部合計	1,301,340,839	1,381,534,001	△80,193,162
構築物	36,205,537	43,675,984	△7,470,447	純資産の部			
機械及び装置	4,702,076	5,093,712	△391,636	基本金	204,186,865	204,186,865	0
車輛運搬具	4,851,604	2,096,624	2,754,980	国庫補助金等特別積立金	1,846,884,253	1,925,217,948	△78,333,695
器具及び備品	74,068,751	89,666,517	△15,597,766	その他の積立金	528,046,931	511,519,770	16,527,161
有形リース資産	25,937,486	31,942,314	△6,004,826	建設積立金	95,231,834	95,116,530	115,304
権利	3,793,334	3,813,334	△20,000	人件費積立金	53,100,000	60,100,000	△7,000,000
ソフトウェア	779,232	1,409,527	△630,295	施設整備等積立金	347,218,327	323,993,170	23,225,157
無形リース資産	4,656,960	8,385,552	△3,728,592	工賃変動積立金	2,750,000	2,750,000	0
投資有価証券	450,000	450,000	0	設備整備積立金	13,000,000	13,000,000	0
退職給付引当資産	283,921,199	277,016,574	6,904,625	奨学資金積立金	16,746,770	16,560,070	186,700
建設積立資産	95,231,834	95,116,530	115,304	次期繰越活動増減差額	2,178,885,186	2,235,485,014	△56,599,828
人件費積立資産	53,100,000	60,100,000	△7,000,000	(うち当期活動増減差額)	△40,072,667	53,723,886	△93,796,553
施設整備等積立資産	347,218,327	323,993,170	23,225,157	純資産の部合計	4,758,003,235	4,876,409,597	△118,406,362
工賃変動積立資産	2,750,000	2,750,000	0	負債及び純資産の部合計	6,059,344,074	6,257,943,598	△198,599,524
設備整備積立資産	13,000,000	13,000,000	0				
奨学資金積立資産	16,746,770	16,560,070	186,700				
報酬返還積立資産	0	6,600,000	△6,600,000				
長期前払費用	2,042,713	4,526,323	△2,483,610				
その他の固定資産	3,131,000	1,730,000	1,401,000				
資産の部合計	6,059,344,074	6,257,943,598	△198,599,524				

# 社会福祉法人 黒松内つくし園 経営施設事業所一覧

## 児童養護施設 黒松内つくし園

(地域小規模児童養護施設『ホームすぎな』・子育て短期支援事業)

〒048-0101 黒松内町黒松内562-1 TEL0136-72-3033

## 養護老人ホーム 緑ヶ丘老人ホーム

(老人短期入所事業・居宅介護等事業『黒松内つくし園ホームヘルプステーション』)

〒048-0101 黒松内町黒松内562-4 TEL0136-72-3139

## 老人デイサービス事業 黒松内町デイ・サービスセンター

(居宅介護支援事業『黒松内つくし園居宅介護支援事業所』)

〒048-0101 黒松内町黒松内562-4 TEL0136-72-3750

## 障がい児入所施設 しりべし学園

(短期入所事業・児童デイサービス事業・日中一時支援(タイムケア)事業)

〒048-0101 黒松内町黒松内565-2 TEL0136-72-3173

## 障がい者支援施設 しりべし学園成人寮

共同生活援助事業 いずみホーム・しりべしワークセンター セオス

〒048-0101 黒松内町黒松内565-2 TEL0136-77-2950

## 特別養護老人ホーム 緑ヶ丘ハイツ

(老人短期入所事業)

## 診療所 緑ヶ丘ハイツ診療所

〒048-0101 黒松内町黒松内561-1 TEL0136-72-3330

## 障がい者支援施設 後志リハビリセンター

(障がい者短期入所事業)

〒048-0101 黒松内町黒松内563-6 TEL0136-72-3767

## 保育所 認定こども園黒松内保育園

(地域子育て支援拠点事業)

〒048-0101 黒松内町黒松内303-4 TEL0136-72-3230

## 訪問介護等事業 つくしんぼ

## グループホーム つくしんぼ

(認知症対応型共同生活介護事業等)

## 障がい福祉サービス事業 人と人をつなぐ 陽だまり

〒044-0033 倶知安町南3条西1丁目 TEL0136-55-5000

## 障がい福祉サービス事業 羊蹄セルフ

## 身体障がい者福祉ホーム 羊 蹄

〒044-0085 倶知安町峠下113-14 TEL0136-23-0425

## 共同生活援助事業 つくしホーム

〒044-0004 倶知安町北4条東1丁目 TEL0136-23-0425

## 養護老人ホーム 慶 和 園

(老人短期入所事業)

## 特別養護老人ホーム ユニットケア慶和園

(老人短期入所事業・障がい者短期入所事業)

〒044-0132 京極町更進780-1 TEL0136-42-2201

## 泊村養護老人ホーム むつみ荘

## 泊村特別養護老人ホーム むつみ荘

(老人短期入所事業)

〒045-0202 古宇郡泊村大字茅沼村711番地3 TEL0135-65-2255

## 介護老人保健施設 湯の里・黒松内

(短期入所療養介護事業・通所リハビリテーション事業・訪問リハビリテーション事業)

〒048-0101 黒松内町黒松内565-11 TEL0136-77-2120

# (福)黒松内つくし園各事業所 2021年度事業報告

## 児童養護施設

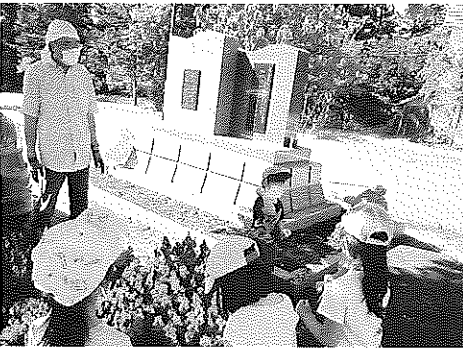
### 黒松内つくし園

児童を取り巻く環境は日々変化し、核家族化が進み児童数は減少している中、児童虐待相談件数は増加の一途を辿り、令和2年度に初めて20万件を超えた。こうした状況下で昭和46年から50年間変更する事のなかった定員数を80名から75名とし、国が進める「社会的養育推進計画」に向け第一歩を踏み出した。

令和3年度は本園68名(一時保護委託児童1名含む)、ホームすぎな6名でスタートし、年間を通して初日在籍児童数は月平均92.5%(一時保護児童を除く・ホームすぎなは100%)、職員配置基準は4月に退職者が1名あり、10月のみ5.1となったが、11月に中途採用し4.5.1の配置基準を維持することができ、安定した施設経営となった。また、前年度に職員がコロナウイルスに感染した経験を活かし、対策を徹底し、感染者を出さずに1年を過ごす事が

できた。

支援面においてはコロナウイルス感染症対策で、外出等を制限し、行事は縮小されたが、前年度より延期となっていた第三者評価を10月に受審し、支援の見直しや施設の改善点工夫(パンフレットにルビを打つ等)で支援の幅を広げる事が出来、職員の資質向上に繋がった。人材育成ではオンライン研修を積極的に受講した。社会貢献活動では細心の注意を払って実習生の受け入れを行ったことで就職につなげる事ができ、中途採用では看護師と生活支援員を採用した。新規採用では支援部門4名(実習生2名含む)、臨時調理員1名を採用し、人材確保が課題とな



## 認定こども園

### 黒松内保育園

黒松内町唯一の就学前施設、黒松内保育園として、スタートしてから55年の歴史を踏まえ運営してきました。

黒松内町の自然・人・物(法人も含め)との関わりを持ち、子どもの成長・発達・経験のための有効活用につなげ、幼児教育・保育に生かす事で関係機関と連携を深めることができました。

黒松内町からは、森のようちえん・運動教室を提供頂き、栄養士による栄養教室は、食に関する関心を深め、給食には地産地消やご当地メニュー等も取り入れ食の部分の関心を深める事に繋がっています。

新型コロナウイルス感染症対策として園内の消毒強化に努め、園児が登園する前に全体消毒を済ませる事に対応してきました。結果として、インフルエンザや他の感染症も防げ「安全」に繋がりました。

社会貢献では、7月より新たに園児の通園の送迎が困難な世帯を対象に児童送迎事業を開始、

見守りボランティアの皆さんの協力を頂いています。

業務改善では、職員の休憩時間の確保、行事の見直しで必要なものを大切に、簡素化できる部分の検討を今後も続け取り組んで行います。

地域子育て支援センター「さんさん」では、一時預かりサービをスタートしました。園で行う一時預かりが、保護者の安心感に繋がりに入園に繋がる事を実感しました。

認定こども園黒松内保育園は、子育て中の保護者の方のニーズに寄り添い安心して利用して頂けるように、子ども達が自発的にイキキと成長できるように努めて来ました。





### 養護老人ホーム 緑ヶ丘老人ホーム

拠点内事業に於いて長所や機能を最大限に生かし様々な事業所とも連携を図りながら歩んできました。昨年4月より、外部利用型特定施設から一般型特定施設に切り替え、利用定員30名ではありますが、職員の努力によつて順調に推移しました。また、養護入所定員80名につきましても同様に入所照会があり満床で経過することができました。短期入所事業については、コロナ禍の影響が若干ありますが、新規利用等もあり、昨年同様の稼働率をキープ出来ています。

拠点内在宅福祉部門のデイサービスについては、近隣町村の感染状況や悪天候等で中止することもありました。稼働率については、施設入所等の影響を大きく受けた形となり、苦戦しておりますが、次年度に向け働き掛けを強化し利用者の確保に努めたいと思います。居宅介護支援事業所では、急な相談等にも迅速に対応しながら関係機関とも連携致しましたが、入所や入



院等により利用者数の確保に苦戦しました。ホームヘルパーズテーションについても、利用者数の確保に苦慮しました。次年度も居宅介護支援事業所との連携、情報共有を図りながら利用者数の増加を目指します。

そのような中でも、大きな事故等もなく運営できたことは、職員一人ひとりが力を発揮してくれた賜物であります。様々な課題はありますが、横の繋がりを大切に取組んでいくとともにこの1年の反省を生かし、利用者者の安心、安全、信頼を得られるような質の高いサービスを提供していきます。

### 特別養護老人ホーム 緑ヶ丘ハイツ

入所利用者68名でスタートし、利用稼働を向上すべく、様々なリスク等を勘案しながら新規入所者の受け入れに対応しました。早め早めの準備を行いながら調整しておりますが、本来であれば向上しているはずが予想以上の入院や死亡者と相まって横ばい状況の結果となり現状を打破すべく、職員一丸となり取り組んでおりましたが結果に繋げることが出来ませんでした。

入所稼働率を向上させるためには、職員不足は否めなく常にアンテナを伸ばしながら様々な所に声を掛けておりますが、結果に繋がっていない状況です。今後も職員数の増加は見込まれないのが現実であり、様々な面においてギリギリで推移していきます。

そのような中でも、職員一人ひとりが必死に試行錯誤し力を発揮してくれたことで今現在が好ましくあります。人材確保に確実に結果がつくよう最大限の力を注ぐと共に職員育成ややりがいのある

職場風土を見出し安定した経営を目指します。また、この1年間の反省を生かし、利用者に安心と安全な場として満足いただける質の高いサービスを努めていく所存です。



緑ヶ丘ハイツ診療所

令和3年1月より秋野恵美子医師が所長として就任。特別養護老人ホーム主治医として利用者等が安心出来る医療を提供すると共に感染予防対策にも寄与致しました。又、近隣町村の医療機関とも連携する事で、過疎地医療の重要な役目を担う事を推進いたしました。

## 介護老人保健施設

## 湯の里・黒松内

老人保健施設の使命である、在宅復帰を念頭に置き事業を進め、多くの皆様よりご利用いただきました。

長期入所事業では、21名の利用者が退所され。適時新規利用者の入所に繋げるように対応を行いました。短期入所、通所事業については、長期入所利用への変更、新型コロナウイルス3回目接種の影響、感染予防の観点からの利用控えなどもあり、稼働率は低く推移しました。訪問事業では、セラピストの減員により調整に苦慮しながらも利用者2名を確保することができました。施設全体の収支では、長期入所事業の稼働率低下が大きく影響し減収となりました。

職員状況では、セラピスト5名を含め、63名の職員でスタートしました。しかし、セラピスト2名が退職、1名が法人内業務により異動となり2名体制となりました。介護職員では、家庭の事情での退職が相次ぎ厳しい職員配置の中、利用者処遇の

維持に職員一丸となり力を注ぎました。

社会貢献事業では、黒松内中、白井川中学生への福祉体験、旭川福祉専門学校生、今金高等養護学校生の施設実習を受け入れました。また、当施設栄養士による黒松内保育園児への食育教室も行いました。黒松内町社協による独居高齢者宅のボランティア除雪も例年より降雪量が多く3回除雪を行いました。

今後とも継続して利用者の安全・安心を確保し、職員一人ひとりが利用者へ寄り添い処遇の向上に努めて参ります。



## 障がい者支援施設

## 後志リハビリセンター

後志リハビリセンターでは、2021年度も利用者の特性を理解し、本人に対する最善の支援の提供を目指してきました。

利用者の高齢化による認知機能の低下、障害の重度化に加え、新たな疾患の発症など、支援が複雑となるケースが出ています。定員40名に対し、現員41名を確保していましたが、特定の利用者による重複かつ長期入院があり、生活介護では稼働率101%を維持したものの、施設入所では100%には至りませんでした。

コロナ禍で制限がある中においても「日中活動」「ミニ運動会」「食事のテイクアウト」等、職員がアイデアを出し合いながら実施して参りました。倶知安地区「喫茶・陽だまり」にもご協力を頂き、移動喫茶店も実施できました。コロナ禍であっても、日常生活への刺激や季節を感じ、伝統文化に触れる機会を楽しんで頂けたものと思います。

職員体制においては、看護職員を他施設から出向して頂いた



時期もありましたが、年度内に常勤看護師を確保することができ安堵しているところです。新たなベトナム人技能実習生2名は1年半以上待機の状態が続いていましたが、5月に入国、6月着任の予定となりました。

人材確保委員会の取り組みの一つとして、トイレに掲示した『ホッとメッセージ』は、虐待防止や職員のストレス解消に繋がっており、「働きやすい環境づくり」の一助となったと考えます。

施設整備では、屋上防水工事を実施しました。給湯管漏水の発生もあり、今後は設備の耐用年数を見極めながらの整備が必要となってきます。

障がい児入所施設

しりべし学園

2021年度は入所26名、一時保護委託1名でスタートしました。その後、一時保護委託の児童1名を措置入所とし、さらに、措置5名、契約1名の合わせて7名の入所児童を受け入れました。また、4名の過齢児を成人施設へ移行し、年度末の在籍は29名でした。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大により、各行事は中止や縮小となりましたが、出来る範囲で知恵を出し合っただけで、利用者の皆さんの生活に少しでも変化や潤いのあるものとなるよう工夫しました。

帰省や面会も制限する措置を継続し、感染予防対策も徹底しているなか、高等養護学校の児童1名が新型コロナウイルス感染症陽性者となりましたが、早期の対応と日頃からの感染予防対策により感染拡大には至らず終息する事ができました。

南後志児童デイサービスセンター

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で



寿都町、島牧村の公共施設が使用できず、療育活動を一時中止することがありましたが、感染対策を実施し、一部行事を開催し大変好評でした。

また、オンライン研修への参加や関係機関との連携を図ることにより情報を共有し、個々に合わせた療育活動の充実に努めました。

さらに、保護者とのコミュニケーションを図り、保護者の不安や困り感を把握、その思いに寄り添い、対応を検討しました。

数年来の懸案事項であった新センター建設については、令和4年度以降に持ち越しとなりました。

障がい者支援施設

しりべし学園成人寮

成人寮入所は利用者66名でスタートしましたが、3名退所、新規入所は児童からの移行2名、短期実習経験者1名を受入れています。日中活動の活性化を図るため、セオスと協力しての作業や散歩などを計画的に実施しました。また、行事なども実施方法を工夫した上で、衣類の訪問販売やふれあい祭り代替などを実施し、利用者のストレス解消、QOLの向上に努めました。

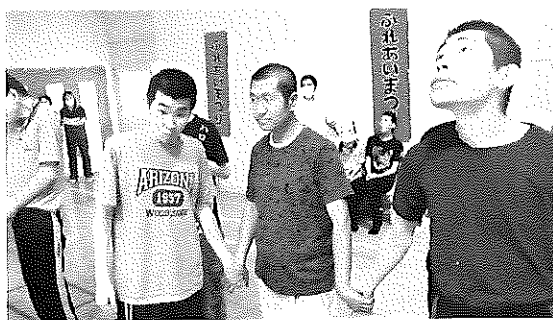
セオスに関しては、利用者28名でスタートしましたが、途中、ハイツで稼働していたGH利用者をセオス利用とし29名の在籍となりました。

地域貢献事業として、密を避ける形で「苗植え交流会」を2年ぶりに実施しました。ふれあい祭りが中止となり花の無料提供は役場・フラワー推進委員会を通じて町民に提供されました。

利用者として利用していた2名が、つくし園臨時調理職員、セオス臨時生活支援員として2022年度から一般就労に就く

ことになりました。いずみホームに関しては、外出がままならない中で利用者同士のトラブルが相次ぎましたが、本人たちと話し合い解決しました。

コロナの感染状況を見ながら買い物支援を実施し、利用者のQOL向上に努めました。長年利用していた90歳の利用者が心身の理由から湯の里・黒松内に移行することが出来ました。



サービ  
ス区分  
共通事  
項とし  
て従来  
のふれ  
あい祭  
りは中  
止とし  
ました  
が、施  
設内行  
事とし  
て露店やゲームなどの参加型企画を実施し、その様子を個別のアルバムにしてご家族へ送付し、お礼と励ましのお手紙等を頂いています。



## 養護老人ホーム 特別養護老人ホーム

### 老人福祉施設 慶和園

昨年度は、前年度から課題としてあがっていたご利用者・ご家族とのコミュニケーション・職員間のコミュニケーション、基礎介護力の向上を念頭に事業を展開しました。

新型コロナウイルスの影響でご家族との面会が難しい状況ではありましたが、各ユニットでは利用者の日常の様子を写真をアルバムにまとめてご家族へ贈ることで、なかなかお会いできないご家族から好評を得ることが出来ました。

各ユニットにおいては、ペアユニット運営を基本としていることから、双方のユニット情報を職員間で気軽に話せる機会としてミニユニット会議を設定。各ユニットには外国人職員の配置もあり、業務内容の相互確認や日本語の遣い方の指導において有意義な時間となりました。さらに、外国人職員と日本人職員の交流の場として、月に一度、季節に応じた外出レク企画を行

ったことで、職員間の交流を図ることができました。

#### ①地域貢献事業について

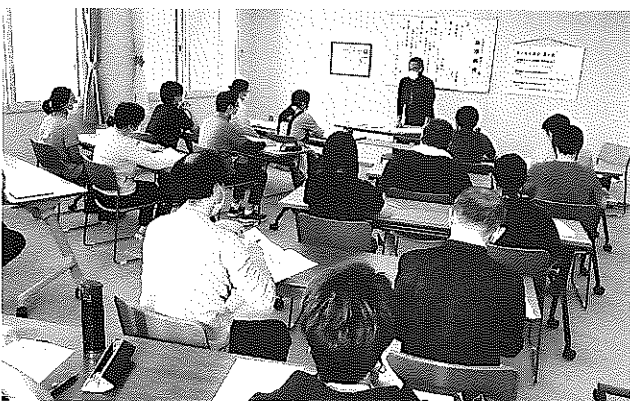
新型コロナウイルスの影響で各医療機関での面会が制限されたこともあり、施設でのお看取り（ご家族が利用者で最期のときを共に過ごすこと）を希望するケースがあり、受け入れを行いました。入所からお亡くなりになるまで三カ月間のお付き合いではありましたが、利用者の最期のときまでご家族が寄り添えることのサポートを行いました。今後も地域における特養施設の役割として、お看取りケースの受け入れを進めて参ります。

#### ②人財育成・定着について

年間を通して、研修計画及び各委員会活動計画に沿った研修を展開しました。特にサービス向上委員会が進めた排泄介助、移乗介助、口腔ケア、褥瘡ケアに関する勉強会は、前年度から課題となっていた基礎介護力の向上を視野にいたした研修の機会となり、現場職員の介護力の向上を図りました。

また、年々利用者像が複雑化していることを踏まえ、新規利用

者の状況に応じて、「精神疾患に関する勉強会」を開催するなど研修の機会を柔軟に設定し対応しています。これらの研修については、多く職員が参加できるように、複数日での開催を設定。常勤職員のみならず、パート職員等も参加できたことで、例年に比べ研修参加率を向上させることができました。今後は、基礎研修を踏まえ知識の修得のみならず、各利用者に応じたご本人本位のケアの実践につなげていくことを目標に取り組みを進めていきます。



R3.12 「精神疾患に関する勉強会」

#### ③人が集まる組織について

働きやすい職場づくりの取り組みとして職員休憩室の更新事業を行った他、安全衛生委員会による啓蒙活動、幹部職員向けのメンタルヘルス研修会や働き方を考えるWEB研修の開催など多様性の受容や柔軟な働き方についての見聞を深めています。



R3.7 休憩室の更新事業

近年、苦戦を強いられている利用者の確保については、新たな取り組みとして札幌市内も含めた入居者募集の新聞折り込みチラシを行い大きな反響から数多くのお問い合わせをいただいています。

倶知安地区事業所

昨年度は、再編におけるその成果と、より良い地区にするための更なる課題の抽出とその解決に向けた取り組みを重点的に行いました。

はじめに、障がい福祉サービス部門では、支援力及び作業提供などの強化、組織のコンパクト化を目指すため昨年度に敢行した事業統合が実を結び、新規利用者の獲得や円滑な全体運営の実施など大きな成果を上げることが出来ました。しかし、一方ではコロナウイルスの流行継続のため外泊・外食事業への敬遠による生産事業の不振、工賃の引き下げによって生じた利用率の低下及び、コロナウイルス陽性者の発生に伴う事業閉鎖による通所率の低下などにより稼働率が低下し、生産事業を含めた地区全体の収益については大きな結果を残すことが出来ませんでした。そのため、2022年度においては通所率向上のための利用者支援の強化及び販売促進強化をし、工賃の回復など収支面においても良い結果を出

すことが出来るよう、次年度も職員一丸となって精進いたします。

次に介護保険部門では、ヘルパーステーションつくしんぼ職員の退職により利用者の大幅な削減を行い、地域や経営面において多大なる影響を及ぼしました。更には、職員の入院によりサービスが滞る事態ともなり、新規利用者の受け入れは出来ないことはもちろん、事業を継続すること自体が非常に困難な状況となりました。そのため、打開策として北海道の厳しい人員配置が課せられる指定をやめ、保険者からの指定を受ける基準該当型事業に切り替えをし、グループホームとの連携や本部の人手不足を解消するため次年度に向けて体制の整備を行うていきます。



養護老人ホーム 特別養護老人ホーム 泊村老人ホームむつみ荘

2021年度は、重点目標を「利用者様の笑顔・喜び・生きがいのために」とし、その達成のため、

①利用者の生活状況をきめ細かく把握し、関係職員で情報共有しながら、状況変化に即したケアプランや24Hシートの策定・見直しを確実にを行い、より良質な個別ケアサービスの提供の推進を図りました。

②利用者が安全で安心して暮らし続けることができる施設づくりの観点から、新型コロナウイルス感染症を始めとする感染症や食中毒等予防対策の強化を図るため、バイタルの管理・手指消毒・三密の回避等の徹底はもとより、新型コロナウイルス事業継続計画の策定及び患者発生時におけるゾーニング研修を開催しました。

③施設運営の安定化のため、人材確保はもとより、適正な人員配置・定着に努めるとともに、毎月研修会を開催し、褥瘡や骨

折等の事故防止対策、高齢者虐待防止対策、接遇マナー等、職員個々のスキルアップと業務改善を図りました。

④職員が働きやすい職場環境づくりの強化充実を図るため、ハラスメント防止対策について、業務改善・研修委員会の主要テーマとして取り組むとともに、昨年度に引き続き「ハラスメント研修」を実施し、職員の意識向上を図りました。

なお、2023年3月で期間満了となる「指定管理協定」について、次期協定の締結(更新)に向けて、継続的に泊村と協議を行い、今後の指定更新並びに施設経営の安定化に向けて、一定の程度までの前段階の進捗を図られました。



**技能実習生3期生10名着任  
辞令交付式・研修会開催**

当法人では、外国人技能実習制度により、技能実習3期生の受け入れを行いました。5月8日に入国し、最初の1ヶ月間は上川郡東川町にて入国後講習を受講し、6月8日より雇用開始となりました。

今回受け入れたのはベトナム国籍の介護職種10名です。配属先は湯の里・黒松内1名、緑ヶ丘老人ホーム1名、緑ヶ丘ハイツ3名、後志リハビリセンター2名、ユニットケア慶和園1名、特養むつみ荘2名です。



今回の実習生のうち、内定を最初に出したのは2020年の3月でした。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、外国人の日本入国が制限されており、今年の春にやっと入国できるようになりました。

1年以上も日本に來られなかった人も多かったので、毎月、配属施設の職員とオンライン面談を実施し、「早く会いたいね」「こっちは雪がたくさん降っているよ」等と交流を深めてきました。そのため、今回配属施設へ到着したときには、職員と抱き合って「やっと会えたね」と喜んでいる場面も見られました。

6月10日には、しりべし学園成人寮地域交流スペース地域交流「ふらっと」にて辞令交付式と研修会を行いました。辞令交付式の際に、大代理事長より一人ひとりに辞令を手渡した後、自己紹介をしてもらい、「将来の夢はベトナムで介護施設を作ることです」と話している方もいました。

研修会では寿都警察署黒松内駐在所、黒松内消防支署、黒松内郵便局の担当者に講師を依頼

し、防犯や防災、銀行・キャッシュカードの利用方法などを詳しく講義していただきました。



当法人では、2019年に初めて技能実習1期生6名、2020年に2期生9名を受け入れ、今回が3期生となります。現在は2期生が実習中なので、同郷の先輩に色々アドバイスももらいながら生活しています。

技能実習制度は、1号と2号で実習期間が3年間と定められており、限られた時間の中で日本の介護技術を習得してもらうことが目的です。一般の雇用者と違い、実習の内容や時間数が細かく決められ、また1年目と

3年目には試験も課せられています。実習期間が終われば、母国に帰るか、もしくは特定技能外国人としてさらに最大5年間日本で介護職員として働くことができます。当法人でも、技能実習1期生のうち3名が今年3月から特定技能に移行し、同じ事業所で継続して就労しています。





**特定技能外国人を新たに雇用  
当法人初のインドネシア人着任**

当法人では今年5月、特定技能外国人を7名新たに雇用しました。

5月8日には、インドネシアから4名が入国し、続いて5月17日にカンボジアから3名が入国しました。どちら  
ども、特定技能になるための試験を母国で受験して合格した方々で、日本で働くのは初めてとなります。



配属施設は、湯の里・黒松内が1名、しりべし学園成人寮が3名、ユニットケア慶和園が2名、俱知安グループホームつくしんぼが1名となります。

新型コロナウイルス感染症による水際対策のため、日本に入国してから3日間は札幌市内の

ホテルで待機期間を過ごしました。待機中は、支援機関による生活オリエンテーションをオンラインで受け、日本の生活の基本的な

ルールを学びました。5月23日には、しりべし学園成人寮地域交流スペース「ふらっと」にて、特定技能外国人辞令交付式・研修会を行いました。大代理理事長より一人ひとりに辞令を交付しました。スーツ姿に身を包み、来席者の前で1人ずつ日本語による自己紹介を行いました。とても緊張していたながらも、覚えた日本語で挨拶する姿に、見ていた側も背筋が伸びる思いでした。研修では寿都警察署黒松内駐在所、黒松内郵便局よりそれぞれ担当者を講師に迎え、「防犯や交通ルールについて」「郵便貯金について」等をご講義いただきました。



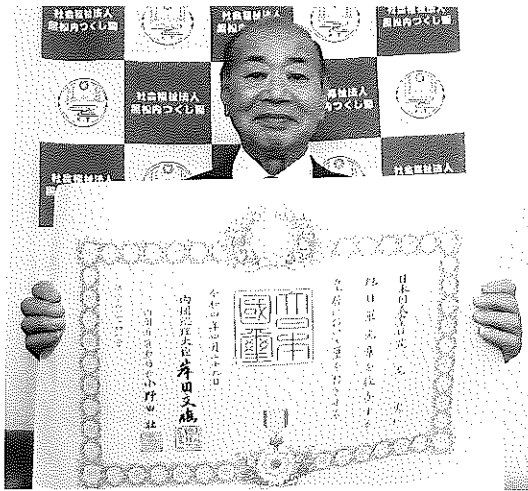
ききました。研修時は日本語を話した後に2カ国語の通訳をするという、やや手間のかかる方法となってしまういましたが、講師の方々にはご協力いただき感謝申し上げます。特定技能外国人は雇用期間が最長5年間と決まっておりますが、できるだけ長く日本で働きたいと思っています。また、配属事業所においても、業務を覚えてきたら夜勤も勤務できるようになったら、仕事内容の調整が可能であったりと、介護の人材不足に大きく貢献しています。特定技能外国人には、5年間の雇用中に特別な試験を受ける義務等はありませんが、皆さん、日本語能力試験を受けたいと意気込んでおります。異国の地で、初めての介護業務に携わりながら、業務時間外に自主的に日本語学習をしており、とても勉強熱心です。今回の受け入れにより、日本の福祉専門学校を卒業して「在留資格介護」で入職した外国人を含めると、現在ベトナム、カ

ンボジア、インドネシアの3ヶ国から39名が黒松内つくし園で働いています。気候や文化、宗教も日本とは異なるため、初めは不安なこともあるかと思いますが、法人一丸となって少しでも暮らしやすいようにサポートしていきます。また、受け入れしている私たちも、日本の介護技術や文化を伝えながらも、彼らの国の文化を受け入れ、多文化共生を進めたいと思います。いま将

**2022年度 特定技能外国人辞令交付式**



は「黒松内つくし園の介護」を広めていただく事で、長期的なSDGsの取り組みにも繋がっていくと思います。



**黒松内町の商業の振興に寄与  
茂尾実理事が旭日単光章受賞!**

当法人の理事である茂尾実氏が永年の功績が認められ、旭日単光章を受章、5月に黒松内町長から勲記及び勲章が伝達されました。茂尾理事は、昭和48年4月に黒松内町商工会理事に就任され、その後副会長を経て平成16年より商工会長に就任。令和3年までの48年間、商工会と町内工業者の振興発展に貢献されました。また、平成3年より現在まで当法人理事として、法人運営や経営について尽力いただいています。他に

も世界的な奉仕組織ライオンズクラブの地域リーダー「ガバナ」を務められるなど、黒松内町はもとより後志管内の地域福祉のためご活躍されました。本年9月には、コロナ禍で実施できなかった令和2、3、4年に叙勲された方々を対象に皇居の見学会が開催され、茂尾理事も参加されるとのことでした。この度の叙勲の栄誉を心よりお祝いするとともに、今後とも変わらぬご指導をよろしくお願ひ致します。

**法人会務の運営状況**

(2022年5～6月開催分)

- ◆ 5月11、17日 2021年度決算内部監査
- ◆ 5月17日 施設長・副施設長会議
- ◆ 5月17日 事務担当者ミーティング
- ◆ 5月18、20日 あすの監査法人決算監査
- ◆ 5月23日 特定技能外国人辞令交付式・研修会
- ◆ 6月3日 監事監査
- ◆ 6月6日 第428回 理事会
- ◆ 6月10日 外国人技能実習生辞令交付式・研修会
- ◆ 6月14日 施設長・副施設長会議
- ◆ 6月14日 事務担当者ミーティング
- ◆ 6月15日 苦情解決委員会
- ◆ 6月28日 第53回評議員会

**ご厚志に心から感謝申し上げます**

(令和4年4月1日から5月31日まで=敬称は略させていただきます。また、常勤役員からのご厚志については、お名前を控えさせていただきます)

廣瀬悦子、谷口徹、(以上黒松内町)、藤波やす子・中川まさ子(以上京極町)、高木良一(千歳市)、遠藤健次、河瀨昭一、武知二三夫、玉置亘、氏家記見江(以上札幌市)、大井賢(大阪府大阪市)

**編集後記**

暑さと寒さ、快晴と「じり」(曇り・小雨・霧のような空模様)、蝦夷梅雨が交互に続き、ブナの樹々も力強さを増しています。6月も終わりに差し掛かり、2021年度決算が評議員会で承認され、決算書類作成や関係機関への様々な報告書類地獄がもうすぐ一段落しそうです。

新型コロナウイルス感染は依然高止まりしていますが、身近での発生についても「誰」と気にすることは少なくなりました。いつ誰が感染してもおかしくなく、リスクも踏まえた中で、海外からの入国者や国内での旅行・外出が増加、そして経済の回復が待たれます。

当法人にもようやく新たな外国人技能実習生と特定技能者が着任。インドネシアからも来てくれました。この6月に、当法人名誉顧問の稗田先生がお亡くなりになりました。やさしい眼差しと笑顔、温厚で素晴らしい人格者で、いろいろとお世話になりました。ご冥福をお祈りします。

法人ホームページがリニューアル。スピードアップし、「重い」状態が大きく改善しました。さらにより良い情報発信を行っていきたいと思います。会報ブナの里と合わせて、どうぞホームページをご覧ください。

岡田